



広島県議会議員
石津正啓
E-mail: rtccr129@yahoo.co.jp

発行 公明党広島県議会議員団
〒730-8509 広島市中区基町10-52
連絡先 石津まさひろ事務所
〒720-1147 福山市駅家町向永谷131-4
TEL・FAX: 084-976-6509

No.4

県政に皆さまの声を届けます。
ご意見・御要望をお待ちして
おります。

長期化するひきこもりへの対策について

2月定例会一般質問



一般質問する石津議員

質疑応答 (趣旨)

質問 長期化するひきこもりは中高年層で深刻化しており、支援体制の構築を急ぐべきだと思うが、現状をどのように把握し、今後どのように取り組んでいこうとしているのか。

答弁 ひきこもり家族会からは、長期、高齢化しているケースが多いと伺っており、四十歳以上のひきこもりは多いと考えている。県としては相談支援センターで相談を受けるとともに、来所できない長期ひきこもり者に対しては、平成三十年度から訪問支援を行うこととしている。さらに、市町が行う生活困窮者自立支援制度による包括的な相談支援機能の向上にも努めていく。

11月決算特別委員会

河川の氾濫による浸水対策について

質疑応答 (趣旨)

質問 今回の豪雨災害では河川の氾濫により、各地で甚大な被害が発生しました。

河川の排水につきましても、非常時に排水ポンプ車を利用することも考えられますが、今回の豪雨災害のように同時多発的に氾濫する場合には、それでは間に合わず、抜本的な排水ポンプの整備が必要です。そこで、これまでどのような方針に基づいて河川の排水ポンプの整備を進めてきたのでしょうか。また今回の豪雨災害を受けて、特に大雨の度に頻りに浸水する箇所については、計画を前倒ししてでも、早急に排水ポンプの整備を進める必要があると考えますが、土木建築局長のご所見をお伺いいたします。

答弁 河川の氾濫を防止・軽減するための対策といたしましては様々な方法があり、河川の特長や周辺の状況等を総合的に勘案しながら効果的な方法を選定し、事業を進めているところでございます。福山市内のような低平地におきましては、排水ポンプの整備も有効な対策の一つであると考えており、福川などにおいては、排水ポンプの整備を河川整備計画に位置付けているところでございます。

今後の対策につきましては、現在、学識者などによる「平成30年7月豪雨災害を踏まえた今後の水害・土砂災害対策のあり方検討会」において、検討しているところであり、その結果を踏まえながら早期事業効果の発現に向けて取り組んでまいります。



被災箇所の早期復旧と防災減災の取り組みを推進

谷合農林副大臣(当時)と市内のため池を視察し、ため池管理の総点検を推進



2016年6月豪雨災害で福山市の内土砂災害箇所や河川護岸の早期復旧を推進。また2018年7月豪雨災害では、地域のため池が決壊し、犠牲者が出るなどの被害が発生したことを受け、谷合農林副大臣(当時)と市内のため池を視察し、ため池管理の総点検を推進。河川の氾濫による浸水被害対策や土砂災害対策の強化も推進してまいります。

防災

神辺ため池視察(2018年7月16日)

核兵器廃絶に向けた国際会議の開催を要望

(2018年3月6日)



河野太郎外務大臣に対し、核兵器保有国と「核の傘」に頼る同盟国が被爆地広島に集い、核兵器廃絶のプロセスを具体化するための国際会議を開くよう提言。同時に、核兵器禁止条約への参加を訴えました。

原爆死没者慰霊碑に献花

(2018年7月24日)

平和



7月24日、公明党広島県本部議員は、山本博司参議院議員と共に、被爆73年の8月6日「原爆の日」を前に、原爆死没者慰霊碑に献花を行いました。これに先立ち、市内の原爆養護ホーム3施設を訪れ、今年で46回目となる被爆者への慰問を行いました。

182号線手城歩道橋の手すり設置



整備前



整備後

安全

高齢者ドライバーの安全確保へ、運転免許センターへの看護師配置

2016年12月定例会で、「運転免許の更新手続きに際し、医療などの専門的な視点を加えることは非常に有意義だ」と述べ、医療系専門職員の配置を訴えてきました。その提案が実り、2018年度から、病気や認知機能の低下などで運転に不安な人や家族の相談に応じるため、広島市にある県運転免許センターの適性相談窓口への看護師の配置が実現しました。



広島県運転免許センター視察(2018年10月2日)